

「せめて40人以下学級にしてください」 泉北教組が市議会に請願

【和泉市議会の委員会で泉北教組代表が述べた意見の概要】

小・中学校の学級定数は、小学1.2年生は35人、小学3年生以上は40人となっています。しかし、現実には1学級の人数が40人（小学1.2年生は35人）を超える学級が多数存在します。これは、国や府の制度が、支援学級在籍の児童・生徒を各学年の児童・生徒数から除くようになっているからです。支援学級の児童・生徒は、支援学級でずっと学習しているのではなく、算数や国語の時間だけ支援学級で学習することが多く、その他の時間は通常学級で友だちと一緒に学び、生活しています。朝の時間、4時間から5時間の授業、休み時間、給食、掃除、帰りの会など一日の学校生活のうちたくさんの時間を通常の学級で過ごしています。このことは、支援学級の子と通常学級の子とが関わり合いながら共に伸びていく上でもとてもよいことだと思っています。学習だけでは得られないものを子どもたちなりに得て、一緒に成長していったるなど感じることは多々あります。ところが、定数を超える学級になると、設備的な面でも精神的な面でも本当にゆとりがなくなってしまう。40人を想定して作られた教室では、ロッカー、パソコンが足りない、机がいっぱいで友だちとすぐぶつかってしまうなど数え上げたら切りがないくらい困ったことだらけです。また、学級担任としては、全員の子もたちと1日1回は話をしようと思っても、できない。1日1回は授業中に発言させてあげたいと思っても難しい。私は以前勤めていた学校で小学1年生40人の担任をしていたことがあります。一人ひとりのノートを見てあげたくて、「先生の所に持っておいで」と言うと、長蛇の列になり、待っている間にけんか、ノートを見るどころではなくなっていました。それで、「できた子はその場で手を上げて、先生行くから」と言うと、子どもたちを待たせる時間も長くなりますし、40台の机と机の狭い間をすり抜けて回っていたら、何本ものズボンがすり切れてしまいました。そこで、ノートを集めるようにしたのですが、1人1冊集めても40冊になるので、1人2冊3冊集めると積み上げられなくてノートが雪崩を起こし、本当見てあげたいタイミングでノートを見てあげられませんでした。支援学級の児童・生徒が何人もクラスに居て、その子一人ひとりに合わせた声かけやアドバイスをしてあげたくても、行き届かない、多くの通常学級の子たちにも同様で、もう少しで乗り越えられる課題にもう一押しをしに行ってもあげられない、本当に教師として辛い気持ちになります。子どもたち同士がよい関わり合いができるように見守ることも難しく、トラブルが多くなって、子どもたちの心も荒れがちです。

本来なら、住む地域によって受ける教育に差ができないように、国や府の制度として、1学級の定数を引き下げ、40人を超えることがないようにしてほしいのですが、なかなか進む見通しはもてません。それで一日も早く全ての子どもたちにゆきとどいた教育を保证するため、大阪府下の多くの自治体で定数を超える学級をなくすための施策を講じています。近隣では、堺市が38人以下学級に、泉佐野市では35人以下学級にしています。署名は現在2094筆です。和泉市でもせめて40人を超える学級がないように、一人ひとりの子どもたちを大切にできるように、きめ細やかな教育ができるように施策を講じていただくようお願いいたします。

泉北教組は、「小・中学校の定数超えをなくす施策を求める請願」を和泉、高石の両市議会へ11月に提出しました。

1学期から署名に取り組み、各職場、各地域の団体から寄せられた「請願署名」は、和泉、高石それぞれ200筆を超えました。

11月30日に開かれた市議会厚生文教委員会で、泉北教組の代表が意見を述べました。（意見の概要は左）

11月30日に開かれた総務文教委員会で審議



「戦争法」を廃止させよう。子どもたちや自衛隊員を戦場に送るな。